

ご挨拶とLODE（ロード）のご紹介

『生きる力を育む研究会』の主要メンバーである南部美智代さんは、平成22年度防災担当大臣表彰を受賞された全国的に著名な災害ボランティアです。南部さんはかつて阪神大震災後に『DIG（ディグ：災害イメージーションゲーム）』の実施方法を考案されました。

しかし、その後全国で普及したDIGは、“防災”に意識が集中したからでしょうか、“弱者の方々についての理解の促進”に関しては、十分ではないケースが多かったように感じております。

また、DIGは戸建て住宅が中心の地区には強かったものの、中高層の団地では利用しづらいという課題を抱えていました。

そこで私達『生きる力を育む研究会』では、「災害時に支援の必要と思われる方々のことをもっと学ぼう」、「災害弱者の方々の避難についてもっと真剣に考えよう」、「その成果を防災活動だけでなく普段の見守り体制づくりに活かそう」、そして「マンションや中高層公営住宅でも利用できる“団地のDIG”を作ろう」という思いから、南部さんが中心となってLODE（ロード）マップづくりを考案いたしました。

平成25年度は、兵庫県伊丹市有岡地区「サン伊丹」や「パレス新伊丹」等の分譲マンション、さらには札幌市厚別区の大規模公営住宅もみじ台団地「第二もみじ自治会」等から実施要望をいただき、その有効性や課題等の調査を兼ねた実証実験的な取組みをさせていただくことができました。

今年度の締めくくりにあたって、私達の取組みの概要をご報告させていただきますので、福祉や防災の関係者はもとより、全国各地で“団地コミュニティづくり”に腐心されている現場の皆様方から、ご指導、ご鞭撻、さらには実施支援のご要請等を多数お寄せいただけますならば幸甚です。

生きる力を育む研究会

代表幹事 社会福祉士 藤本 真由

Digは“掘る”という意味を持ちます。防災まちづくりに携わる“鉦夫（Digger）”達が掘り進めたのがDIGです。

一方、Lodeは鉦脈という意味です。DIGを開発・推進した鉦夫達が鉦脈を見つけたのです。「小さき者（Little people）も、老いたる者（Old people）も、障害を抱える者（Disabled people）も、みんなで避難（Evacuation）しよう、みんなで生きて行ける社会をつくろう。このことが一番大切な思いなんだ。」という鉦脈“LODE”を掘り当てたのです。

LODEマップづくりは、地域に在る大切な鉦脈（様々な方が暮らすコミュニティという鉦脈）から、大切なタカラ（住民一人一人の命と思い）を掬い上げる（救いあげる）ための方法や道筋を、住民自身の手で考えるために行う作業です。

LODEにおいて大事なことは、「地図を作るだけでは終わらない」ということです。「お子さんや、ご高齢な方々、障害を抱える方々の思いや状況をより深く学んで理解する」、このことこそLODEにおいて最も大切なことだと考えます。

災害弱者と言われる方々は、平時においても危険と隣り合わせです。様々な事故や病気、孤独死などの緊急事態（Emergency）に遭遇する危険性があります。「災害を想定しての避難の検討は、平時の見守りにも役に立つはずである」、我々はそのような確信を持ちLODEを普及させたいと願っております。

生きる力を育む研究会

幹事

南部 美智代